

おわりに

conclusion



今、この冊子を手に取り、「おわりに」を読んでいるあなたは、第1期台東区地域福祉活動計画(以下、計画)から何を受け取りましたか。「はじめて知った」という知識、「やってみよう」という勇氣、「しあわせに生きたい」という希望、「変わろう・変えていこう」という意志、「自分にも何かできる」というパワー……。この冊子は、あなたに何かを受け取ってほしいという思いにあふれています。

私たち計画の策定委員もこの計画づくりを通して、自分はひとりぼっちだと感じている人、必要な情報を受け取れない人、行きたいところに行けない人、困っていても困ったと伝えられない人など、様々な「生きづらさ」を感じている人がいることを学びました。社会福祉協議会のみなさんは、日ごろのお仕事に加えて、たくさんの人や組織・団体の話を聞き、まとめ、策定委員会で報告してくれました。

そこで分かったのは、台東区で暮らしている人は多様で、そのような「生きづらさ」を感じている理由も人それぞれだということです。この計画づくりには、「生きづらさ」の理由にかかわらず、誰もがその人らしく暮らしていける地域社会を創るにはどうすればいいのか、という学びが活かされています。

その結果、この計画は「Challenge to the Future 私たちみんなでつながりと支え合いが生きるまちを創っていく」という理念を掲げ、あなたとみんなが「誰もがその人らしく暮らしていける地域社会を創る」ことを目指して一緒にChallengeしていくためのものになりました。

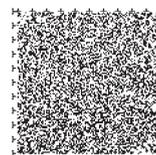
この冊子からあなたが何かを受け取ることができたなら、それはきっとあなたのChallengeにつながり、あなたはその行動や活動を通してたくさんの人とつながります。あなたのつくったつながりはみんなのつながりになり、そのつながりはあなたと誰かが自分らしく生きることを支えます。計画策定の「おわりに」は、台東区にかかわるみんなで力を合わせてHAPPYがあふれる未来をつくる「はじまり」でもあります。一人ではできません。台東区にかかわる私たちが、「つなげよう！HAPPYがあふれる未来へ」を合言葉に力を合わせるきっかけがここに 있습니다。みんなでHAPPYがあふれる未来への一歩を踏み出しましょう！

令和7年3月

台東区地域福祉活動計画策定委員会 委員長

武蔵野大学 人間科学部 教授

渡辺 裕一



策定委員からのひとこと



台東区民生委員・児童
委員協議会 浅草橋地区会長
牧田副委員長

民生委員の一人として策定委員会に出席させていただき、有意義な時間を共有しました。委員の意見をまとめて下さった社協の方々の努力により素晴らしい活動計画書が出来上がりました。より多くの人々の目にふれ、活用していただきたいと思います。そして困ったことがあったらどんな事でも民生委員に相談してほしいと思います。

人を大切にする組織(町会)と私は長い間、居住地の人達と居心地が良い街づくりを形成できると考えてきました。この度策定委員に選任され、会議を重ねる毎に難しい問題だと感じ、しかし同じ意見を持つ同志であれば達成可能かもしれない、それには座右の銘であります「和を以て貴しとなす」のように一人一人の心の大切さが福祉をもたらしてくれるものだと思います。



竹町地区町会連合会 会長
熊倉委員



特別養護老人ホーム
フレスコ浅草 施設長
佐藤委員

はじめて計画策定に参画し、委員としての責任を強く感じました。台東区は他の区と比べても多様性に富んでいると思います。多岐にわたるネットワーク・支援が構築されていることが、この活動計画を通じ、住民の方々へ広くいきわたること、少しでも住民がつながり、豊かな生活を送ることができるよう願っております。

今回の策定委員会では、様々な分野で地域で活動されている方とのつながりをもつことができました。皆さんからのご意見を伺う中でこれまでに感じていた分野を越えたつながりや協働の大切さを更に感じました。支え合うことを「他人事ではない」と共有できればみんながハッピーな共生社会を実現できると思います。



台東区障害福祉団体
連絡協議会 理事
野坂委員



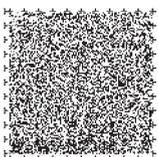
台東区子育てを支え合う
ネットワーク 理事長
石田委員

台東区地域福祉活動計画の策定委員会に参加させていただき、自分自身も地域福祉について改めて考える良い機会となりました。2020年のコロナウィルス感染拡大に伴い、それまでの当たり前が大きく変化し、格差の広がりや孤立の増加を感じます。この計画がお互いに助け合える地域共生社会の実現の一助になることを願っています。

社会活動は「他者のために」というイメージがひとり歩きしがちですが、実際には利他的なものだけに留まらず、活動者自身の心身を豊かにする契機になるものではないかと思います。この計画が多くの方の目に入り、台東区が人生の豊かさとは何かを熟考してゆける地域になることを願っています。



厳念寺 住職
菅原委員



日本語教師
山藤委員

地域の方々から様々な課題を直接お聞きし、やはり住民同士のつながりを深める取り組みが、地域全体にとってどれほど重要であるかを実感しました。今後は、地域の皆さんと共に、持続可能な福祉活動を展開し、すべての人が尊重される環境づくりに貢献していきたいと考えております。



東京青年会議所
台東区委員会 委員長
大石委員

台東区地域福祉活動計画策定委員会に参加させて頂き、皆様の台東区を想う気持ちの熱量に感銘を受けました。世代や背景は違えど、同じ地域に住み暮らし、この台東区をより良くしていくために、改めて尽力すべきだと感じました。「つなげようHAPPYがあふれる未来へ」の実現に向けて、今後とも引き続きよろしくお願い致します。

本計画の策定にお声掛け頂き、心より感謝致します。委員会の活動を通して、社協や区役所の方々と関係性を深めることができました。また、地域を支える専門家の方々と、台東区をより良くしていくために、血の通った対話や議論もできました。今後も関係者の皆様と連携しながら、台東区の魅力を発信していきたいですね。



株式会社多慶屋ホールディングス
人事総務グループマネージャー
河田委員



東京藝術大学
社会連携センター 教授
伊藤委員

福祉計画をまとめるにあたり、台東区の地域を支える多様な皆様方と繰り返し議論できたことは、とても有意義な体験でした。藝術大学の教員として、加わられたことを本当に嬉しく思います。アートと福祉はとても近い存在にあると確信しています。これからは、この計画をしっかりと動かす一員でもありたいと思います。

初めて策定委員として本計画に参加させていただき、大変貴重な経験をさせていただきました。異なる専門性を持つ策定委員と共に地域の課題について、意見の相違がありながらも、共通の目標に向かって協力していく姿は、これから台東区が見据える地域社会の礎に思えました。本計画が多くの人の支えとなることを願っています。



ボランティア活動者
大松委員



ガイドヘルプ
あいサポート 理事長
和泉澤委員

地域の繋がり方も変化している現在、地域福祉活動も自分事として捉えることの難しさを感じていました。策定委員の皆様の意見が計画に反映され「つながる、支え合い」と言っても「一人から始まる」が明確になり、その先にハッピーな未来へと続き「台東区に暮らして良かった」と思える分かり易い計画書になっていると思います。

いろんなアイデア、それぞれの立場からのご意見、時には拍手が湧き上がる活気ある策定委員会でした。この場に委員として参画できたことを感謝いたします。地域の皆様と一緒に策定した「台東区地域福祉活動計画」と区が策定した「台東区地域福祉計画」を連携させながら、これからの台東区の地域福祉を推進していきます。



台東区福祉部福祉課長
古屋委員

地域社会を取り巻く課題は多種多様であり、そのカオス化した状況を、台東区社会福祉協議会がどう迎え撃っていくのかが問われています。今回、策定された活動計画によって、「台東社協」が新たな展開に向かい、地域の皆様から信頼され、共により良い地域社会に向かって歩みだせることを心より願っております。



台東区
社会福祉協議会 事務局長
河井委員

